



産地とアジアのかけ橋となるFTP

沖縄におけるインバウンドの
農林水産物・食品の消費及び農泊の実態調査

～平成28年度沖縄振興推進調査費～

「首里城公園」の 供用区域が約3.6haに拡大



首里城公園(計画面積:約4.7ha)では、全面開園に向けて順次、復元整備を進めており、去る3月31日に「北城郭東地区(約0.4ha)」を追加供用しました。当該地区では、首里城に関わる古地図や古絵図及び伝承に基づき、往時の植栽空間を再現しております。また、休憩や多目的空間として利用できるように園路や芝生広場を整備するとともに、お客様の利便性を図るためトイレ(復元ではありません)を整備しております。

昨年の3月28日に供用した「北城郭西地区」とともに、既に多くのお客様に散策エリアなどとしてご利用頂いています。



北城郭東地区 全景



散策するお客様



再現された植栽(野いちご・竹林)



お問い合わせ先 国営沖縄記念公園事務所首里出張所 TEL.098-886-3161

～美ら島の未来を拓く～
沖縄総合事務局

<http://www.ogb.go.jp/>
広報誌【群星】に対する「皆様の声」をお待ちしています。



- 1 キラッと沖縄 産地とアジアのかけ橋となるFTP
～沖縄地域商社7社(FTP)と寺家経済産業部長との対談～
- 6 特集 沖縄におけるインバウンドの農林水産物・食品の消費及び農泊の実態調査
～平成28年度沖縄振興推進調査費～
- 8 仕事の窓1 泡盛ビジネスセミナー ～泡盛の輸出・インバウンドの促進に向けて～
- 9 仕事の窓2 製造業及び物流関連企業による「沖縄力発見ツアー2016」
～沖縄への投資促進や新たな産業の創出・振興を目指して～
- 10 仕事の窓3 私の暮らしと独占禁止法の関わり ～消費者セミナー～
- 11 仕事の窓4 金融仲介の質の向上に向けたシンポジウム
- 仕事の窓5 高校生に対する金融授業
- 12 仕事の窓6 平成28年度農業農村整備事業優良工事等における局長表彰式
- 仕事の窓7 農泊及び地域産品の輸出促進セミナー
- 13 仕事の窓8 おきなわ花と食のフェスティバル2017
～「沖縄県農林漁業賞」、「沖縄・ふるさと百選」、「園芸フェア品評会・表彰」～
- 14 仕事の窓9 都市ガスの小売全面自由化 ～今年4月1日から小売全面自由化がスタートしました～
- 15 仕事の窓10 ヘルスケア産業創出セミナーの開催 ～沖縄におけるヘルスケアビジネスの拡大に向けて～
- 仕事の窓11 国道331号糸満道路完成開通 ～南部地域へのアクセス向上～
- 16 仕事の窓12 「国場川こいのぼりまつり」が手づくり郷土賞(一般部門)を受賞
～「手づくり郷土賞(ふるさとしょう)」【国土交通大臣表彰】～
- 17 仕事の窓13 要配慮者利用施設の管理者向け説明会 ～水害・土砂災害への備えについて～
- 18 仕事の窓14 那覇空港からのバス利用促進の取組
- 仕事の窓15 県内でも図柄入りのナンバープレート車がお目見え
- 19 内閣府だより 沖縄でのバス自動運転実証実験について
- 20 なかゆくい 「プレミアムフライデー」を満喫!!

キラッと 沖縄 OKINAWA

参加者

食品輸出等に関する戦略的連携協定 (FTP: Food Trade Strategic Partnership Agreement)

株式会社新垣通商 代表取締役社長 新垣 旬子
 合同会社アンドワン 代表社員 久手堅 憲雄
 株式会社沖縄県物産公社 代表取締役社長 島袋 芳敬
 株式会社沖縄物産企業連合 代表取締役社長 羽地 朝昭
 株式会社萌す 代表取締役社長 後藤 大輔
 株式会社JCC 代表取締役社長 瀧辺 俊紀
 株式会社BRIDGES 代表取締役社長 又吉 真由美
 内閣府沖縄総合事務局経済産業部長 寺家 克昌

産地とアジアのかけ橋となるFTP ～沖縄地域商社7社(FTP)と寺家経済産業部長との対談～

管内において競合相手となる地域商社7社は、この連携協定締結を契機に沖縄県内外の農水畜産物・加工食品などの輸出拡大を目指し、海外事業における連携及び相互補完によりアジア市場における競争力強化に取り組めます。

今回、地域商社7社の代表と寺家経済産業部長との対談を行いました。

成長するアジア市場では、世界中の国々や日本の各地域から特産品の輸出を目指して参入しており、競争の激化が進んでいます。事業規模が小さい管内の地域商社は現状維持には危機感を覚える一方で、自社単独での海外展開には人的にも資源的にも限界を感じ、これを打破するため、3月7日、県内の地域商社7社による連携協定の締結を行いました。

はじめに

寺家部長 はじめに、本日お集まりいただいた沖縄地域商社の皆様のこれまでの取組について伺いたします。

新垣氏 私どもは、貿易会社としてこれまで様々な事業を行ってきました。現在は、健康食品や化粧品を主に扱っており、台湾・香港などのドラッグストアやデパートへ商品を輸出しています。

瀧辺氏 弊社は、飲食店、ホテル運営や健康食の宅配サービスをメインに事業を行って来ましたが、「日本商品のあれが欲しい、これを持って帰りたい」といったインバウンドのお客様から要望が増え、それに応えることで新しい事業の可能性があると思います。貿易を始めたのがきっかけです。現在、沖縄産の食品や自社セントラルキッチンで製造する餃子やうどんといっ



アンドワン久手堅代表

た商品だけでなく、日本各地の商品を香港・マカオに輸出しております。

後藤氏 私どもは、地域商社として鮮魚をアジアへ輸出しております。在庫管理や鮮度の維持などといった海外へ生鮮品を出す際のハードルはあるものの、沖縄の魚は見えて楽しくだけでなく、食べてもおいしくアジアの方々に喜んでいただいています。地域のそのような価値を沖縄の食文化も含めた形で海外へ発信しております。

久手堅氏 弊社は、主に原材料や食品を扱っており、今年で会社設立3年目になります。設立から日が浅いため連携協定を通じて知識やノウハウを得ることで、今後の取組に活かしていきたいと考えております。

表紙写真

県花「デイゴ」



インドやマレー半島が原産のマメ科の高木落葉樹で、デイゴ、エリスリナともいわれ、日本では沖縄が北限とされています。3～5月に咲く赤い花は、県民の投票により「沖縄県の花」として選定されました。デイゴが見事に咲くと、その年は台風の当たり年で、天災(干ばつ)に見舞われるという言い伝えがあります。



沖縄県物産公社島袋社長

久手堅氏 私は、20年近く台湾・香港の輸入代理店で営業マンとして働いていた経験から、東アジアの中心に位置する沖縄から日本全国の商品を売り出していく、新しい商流を作り出すことができますと考えています。

羽地氏 沖縄のポテンシャルとして、一番の強みはやはり距離的な優位性が挙げられます。沖縄から空路で4時間圏内に人口20億人のマーケットがあると言われており、台湾から沖縄に日帰りでネイルサロンに通うというようなインバウンド観光客もいると伺っています。いかに沖縄が東アジアの各都市と近接性があるかが分かる事例かと思えます。

島袋氏 インバウンド観光客の増加により沖縄県内に新しい市場が生まれ、沖縄の環境は10年前と

業を展開しています。弊社の方針は、物産を通して沖縄の自立経済の発展を担うことを大きな柱としているため、海外事業展開は継続していきたいと思っています。

新垣氏 私は、アジア市場における沖縄は非常にポテンシャルが高いと感じております。台湾から沖縄への観光客が増加するなかで、健康や長寿、豊かな自然というイメージに基づいた沖縄食品に



沖縄物産企業連合羽地社長

寺家部長 皆様の取組の共通点として、アジア市場をターゲットに事業を行っているという点が挙げられますが、アジア市場での沖縄のポテンシャルや取組の中で感じる課題は何でしょうか。

後藤氏 皆さんはアジア諸国の街の市場に並んでいる魚を刺身で食することには抵抗があると思いますが、並んでいるのが沖縄の魚であれば刺身でも安心して食べることが出来る方もいらっしゃると思います。

後藤氏 皆さんはアジア諸国の街の市場に並んでいる魚を刺身で食することには抵抗があると思いますが、並んでいるのが沖縄の魚であれば刺身でも安心して食べることが出来る方もいらっしゃると思います。

後藤氏 皆さんはアジア諸国の街の市場に並んでいる魚を刺身で食することには抵抗があると思いますが、並んでいるのが沖縄の魚であれば刺身でも安心して食べることが出来る方もいらっしゃると思います。

後藤氏 皆さんはアジア諸国の街の市場に並んでいる魚を刺身で食することには抵抗があると思いますが、並んでいるのが沖縄の魚であれば刺身でも安心して食べることが出来る方もいらっしゃると思います。

寺家部長 皆様の意見を伺い、沖縄のポテンシャルの高さを改めて感じているところです。さて、この度の7社連携協定締結に対する想いや意義をお伺いいたします。

寺家部長 ビジネスは、人と人との繋がりが・信頼で成り立つことから、取引先の要望に 대응することができなければ、今後のビジネスに大きな影響を与えてしまいます。連携協定締結により「この商品は当社での取扱いは無いが、連携先企業が扱っているのを声をかけたら対応してくれるのではないか」と要望に応えられ、取引先との信頼にも繋がるのではと考えています。

寺家部長 ビジネスは、人と人との繋がりが・信頼で成り立つことから、取引先の要望に 対応することができなければ、今後のビジネスに大きな影響を与えてしまいます。連携協定締結により「この商品は当社での取扱いは無いが、連携先企業が扱っているのを声をかけたら対応してくれるのではないか」と要望に応えられ、取引先との信頼にも繋がるのではと考えています。

寺家部長 ビジネスは、人と人との繋がりが・信頼で成り立つことから、取引先の要望に 対応することができなければ、今後のビジネスに大きな影響を与えてしまいます。連携協定締結により「この商品は当社での取扱いは無いが、連携先企業が扱っているのを声をかけたら対応してくれるのではないか」と要望に応えられ、取引先との信頼にも繋がるのではと考えています。

寺家部長 ビジネスは、人と人との繋がりが・信頼で成り立つことから、取引先の要望に 対応することができなければ、今後のビジネスに大きな影響を与えてしまいます。連携協定締結により「この商品は当社での取扱いは無いが、連携先企業が扱っているのを声をかけたら対応してくれるのではないか」と要望に応えられ、取引先との信頼にも繋がるのではと考えています。



萌す後藤社長

企業名	主要取扱品目	各社の強み
新垣通商	日用品、化粧品、健康食品	30年以上の業歴。香港、台湾、シンガポールに現地法人を有する。NB商品の他、沖縄県産品（もずく、健康食品など）や三重県産品を輸出。台北地下街にアンテナショップ「e-japan」を運営。
アンドワン	原料系	香港、台湾、中国などの現地メーカー、食品卸へ日本産原料（黒糖他）を輸出。国内OEM、PB商品開発も手がける。
沖縄県物産公社	沖縄県産品	沖縄物産販売店「わしたショップ」を全国に展開。香港、台湾、シンガポール、タイなどにオリオンビール、黒糖、塩、健康食品など沖縄県産品を輸出。
沖縄物産企業連合	沖縄県産品、PB商品	沖縄物産販売店「沖縄宝島」を全国に展開。台湾に営業所を有し、沖縄県産品を中心に台湾へ輸出。多数国内メーカーとともに自社PB商品を共同開発。
萌す	鮮魚	シンガポールを中心に、海外飲食店へ県内外の鮮魚を沖縄物流ハブを経由し輸出。
JCC	飲食店向け食材	飲食店約45店舗及びホテル、ウェディング、宅配食、セントラルキッチンを運営。香港、マカオ、シンガポールの取引先に対し、調理人による調理方法を交えた食材提供を軸に展開。海外バイヤー、製造メーカーと共同で商品を開発しホテル、レストラン、小売店でのプロモーションを行っている。
BRIDGES	ブランド畜産物	香港向け卸を行う。これまでの香港での飲食店経営経験から、香港でのネットワークを有する。



JCC 羽地社長

そういう意味で新しいビジネスの可能性を感じています。また、貿易手続きの改善も、1社単独で見を出してもなかなか変えることができませんが、連携7社の沖縄地域商社の意見として声を上げることができると期待しています。また、皆様の熱意に共感し、一緒に事業をやっていききたいと思いました。

後藤氏 取引先のお客様の中には様々な種類の商品を購入したいと言う方もいらっしゃると思いますが、弊社単独ではどうしても要望に応えきれず、これまで築いた商流を途絶えさせてしまうというケースもありました。今後はこのような取引先の要望に対応可能な連携商社を紹介することにより、新たな商流を築く機会が増えるものと考え

えています。

又吉氏 私どもは小さな企業のため、取り扱える情報、商品のゾーンがどうしても狭くなってしまっています。また、貿易実務に関わる人手が少ないというマンパワーの課題があります。この連携を組むことでスケールが大きく広がって、皆様とやりたいことがどんどん湧き出てくるようになりましょう。このメンバーだからこそ連携したい、沖縄を盛り上げたいと強く思っています。



ブリッジズ又吉社長

羽地氏 沖縄の商品のみでは輸送用貨物コンテナの中身が商品で埋まらないのが現状です。そこで、7社による共同配送でコンテナを埋めることができればと考えています。まずは、この7社でコンテナ

ナ1つ（の中身）を埋めましょうとやっていきたいところです。しかし、その一方で現状のしくみではコンテナ内の1つのアイテムが通関の際、規制などに引っかかったとすると、その他のアイテムも全て積み込むことができません。そのため、コンテナに積み込んだ後においても、アイテム毎で分けて通関できるように新たな仕組み作りが必要となってきます。今回の7社の連携で、このような課題も解決していけるのではと期待しています。

島袋氏 弊社の東京のアンテナショップでは、約6500アイテムを扱っています。沖縄県の物産であれば、弊社の取り扱いしている商品・ネットワークで取引先からの様々な要望に対応できると感じています。また、以前は競合相手であった地域商社同士で話をする機会はありませんでしたが、連携協定を締結することで情報やノウハウの共有が図れると考えております。これまで長く働いてきた弊社の社員に連携の話をしたところ、代表の私と同じ思いでした。社員を含め、沖縄の発展のために自信を持って皆様と一緒に取り組んでいこうと思います。

はないかと考えています。

洲辺氏 個人の考えですが、皆様の商品を一度持ち寄って韓国・ロシアなどでテストし、そこで興味を示された、見込みのある商品を北海道の商社に売り込むという戦略でも非常に面白く、形になるのではと感じています。

寺家部長 今回の連携はとても画期的なことであり、すでに県内外からも注目されております。しかし、まだスタートラインに立つたばかりとも言えるわけで、これから少しずつ皆様の実績を上げ、大きな形になっていってほしいと思います。我々もできる限りのサポートをして参ります。皆様のこれからの取組に期待しています。

本日は、貴重なお話をどうもありがとうございました。



寺家経済産業部長

新垣氏 連携協定を結ぶ商社の皆様はマーケットや情報をそれぞれ持っており、取り扱う商品も異なります。連携協定のメリットは、これらを共有し新たな商流が構築できるという点です。



新垣通商新垣社長

今後の方向性・可能性について

寺家部長 連携によって1社では対応の難しい顧客からの要望に応じることが出来るとともに、ある程度のロットを確保することによりスケールメリットを出し、更にコスト低減も可能となるという利点があるというご意見をいただきました。今回、7社が連携を組

んで声を上げることは、県内外・海外に対しても良いアピールになると思います。何より、皆様それぞれの人柄に惹かれ合って成り立っている人と人との連携と感じています。最後に、今回の連携協定締結は、ある意味スタートラインに立ったという見方も出来ると思います。今後の具体的な事業化がこれからの課題になるものと思われまますので、皆様の考える今後の取組についてお訊きしたいと思います。

島袋氏 今回の連携協定は、7社のトップが集まり話し合いを進めてきました。次のステップとして、各社の現場責任者同士、現場レベルでの連携体制の構築に取り組んでいかなければと考えています。7社で様々な情報を共有し意見交換をすることで、事業化がより具体的に見えてくると考えています。

羽地氏 島袋社長の仰るとおり、連携協定締結までは、代表同士での話し合いで相互理解は深まりました。今、島袋社長から提案がありました。各社の担当者レベルでの会議を開き、そのレベルでスピード感を持って進めていきたいです。そして、連携の中で意見



沖縄地域商社7社の代表の皆様と寺家経済産業部長



アンケートの内容

提供している農山漁村体験、料理及び人気のある体験プログラム
今後、インバウンドを迎えたいと考える同業者に対してのアドバイス
インバウンドを受け入れるに当たり困っていること など

●調査結果の概要

今回の調査によると、インバウンドはSNSなどの情報よりも、実際に沖縄の農林水産物・食品を店頭で見たり、飲食することにより得られた自らの実体験による情報を優先する傾向があります。

また、インバウンドの約6割の方がグリーン・ツーリズムなどの農山漁村体験を伴う滞在(農泊)について関心を有しているなどの情報が得られました。詳細なアンケート結果・分析については、後日、公表する予定です。今後、本調査結果を踏まえ、沖縄における農泊を一層推進することとしています。

参考

農泊の推進について

沖縄総合事務局では、滞在型農山漁村の確立・形成を図るため、沖縄ならではの伝統的な生活体験と農山漁村地域の人々との交流を楽しむ「農泊」を推進しています。

農泊の内容については、具体的には以下となります。

農泊とは **目的** 何を目指すのか!?

農泊とは、農山漁村において日本ならではの伝統的な生活体験と農村地域の人々との交流を楽しむ滞在(農山漁村滞在型旅行)です。

農家民宿だけではなく、古民家を活用した宿泊施設など、旅行者のニーズにあった多様な宿泊手段により農山漁村に滞在し魅力を味わってもらうことを目指しています。

- ☐ 農山漁村の所得向上を実現する上での重要な柱として農泊を位置づけ、インバウンドを含む観光客を農山漁村にも呼び込み、活性化を図ることが重要
- ☐ 地域一丸となって、農山漁村滞在型旅行をビジネスとして実施できる体制を整備
- ☐ 地域の合意形成が図られている ☐ 法人格、専属職員を有する組織が存在している
- ☐ 農山漁村地域の魅力向上・マーケティングの取組

ポイント どのように変わる(変える)のか!?

	従来は	今後は
地域の目標	「生きがいづくり」に重点	☐ 持続可能な産業へ
資金	公費依存	☐ 自立的な運営
体制	任意協議会(責任が不明確)	☐ 法人格を持った推進組織(責任の明瞭化)
受入組織機能	農家への宿泊の斡旋が中心	☐ マーケティングに基づく多様なプログラム開発・販売・プロモーション・営業活動

観光客を農山漁村地域に呼び込み所得を増大!!

目指すべき農泊地域



※なお、沖縄では2020年までに10地域の創出を目指しています。

沖縄におけるインバウンドの 農林水産物・食品の消費 及び農泊の実態調査

特集

～平成28年度沖縄振興推進調査費～

目的・概要・狙い

クルーズ船利用者及び農産物直売所などに来訪するインバウンド(訪日外国人旅行者)を対象に、農林水産物・食品の消費実態や関心についてアンケート及びヒアリングを実施することにより、今後の沖縄におけるインバウンド向けの農林水産物・食品の消費拡大や輸出促進の可能性について、また、農泊の受入農家などを対象に、インバウンドの受入れについてのアンケートを実施し、農泊に対するニーズについて調査を実施しました。

今回の調査項目及び調査概要は以下となり、詳細なアンケート結果・分析については、後日、公表いたします。

調査項目と調査概要

●農林水産物・食品の消費実態調査

クルーズ船を利用したインバウンド

実施期間	平成28年12月6日～平成29年1月31日
調査地	那覇港クルーズターミナル、ツアーバス車内
調査方法	面接聞き取り調査、配布による自記入式調査
回収数	767(面接聞き取り回答数:246、ツアーバス回答数:521)



農林水産物直売所等に立ち寄ったインバウンド

実施期間	平成28年12月9日～平成29年2月2日
調査地	道の駅許田、古宇利島ふれあい広場、第一牧志公設市場など
調査方法	面接聞き取り調査
回収数	550



アンケートの内容

商品の情報の入手先、購入場所、購入理由、購入しなかった理由、不便だったこと
外食した品目の情報の入手先、場所、選択理由、満足度、外食の際に重視すること
グリーン・ツーリズムなどの農山漁村体験の意向 など

●農泊の実態調査

インバウンドを含めた農泊の受入れをしている農家など

実施期間	平成29年1月25日～平成29年2月24日
調査地	名護市、大宜味村、東村、今帰仁村、伊江村、読谷村、糸満市
調査方法	郵送調査
回収数	127



製造業及び物流関連企業による「沖縄力発見ツアー2016」

～沖縄への投資促進や新たな産業の創出・振興を目指して～

内閣府では、2月9日から2月10日にかけて、県外の製造業及び物流関連企業の代表者等の方々に沖縄の豊かな地域資源や優れたビジネス環境等を実感していただく「沖縄力発見ツアー2016」を実施しました。

今年度3回目となる今回のツアーでは、県外の製造業及び物流関連企業12社が参加し、那覇空港貨物ターミナルビル、那覇港国際コンテナターミナル等の国際物流拠点施設の視察や、沖縄ライフサイエンス研究センターなどの視察を行うとともに、本土から沖縄県に進出した製造業2社からのプレゼンテーション及び意見交換等を行いました。



【総務部・経済産業部】

視察

今回のツアーでは、那覇空港貨物ターミナルビル（ANA）、国際ロジスティクスセンター4号棟及び那覇港国際コンテナターミナル等、沖縄国際物流ハブの中心となる施設の視察を行いました。アジアの中心に位置する沖縄県は、その地理的優位性及び24時間の



ワーキングディナーの様子

ワーキング・ディナー

2月9日には、県外から参加された企業の方々、県内経済界関係者、沖縄県庁及び武川内閣府審議官を始めとする内閣府関係者が一堂に会し、ワーキング・ディナーを開催しました。各参加者は、県内企業、大学・研究機関や業界団体等との情報交換を行い、相互の交流を深めました。

企業立地プレゼンテーション

沖縄1丁津梁パーク内において、本土から沖縄県に進出した企業2社（株式会社ナノシステムソリューションズ、三鷹光器株式会社）から沖縄でのビジネス展開におけるメリットや課題等についてプレゼンテーションを行いました。



視察の様子

通関体制により、深夜に那覇空港に届いた貨物を翌朝にはアジア主要都市へ配送することが可能となっています。参加者は、各施設において沖縄国際物流ハブの概要や今後の方針について説明を受けたほか、実際に貨物の積み替えが行われる貨物上屋内や港湾の視察を行うなど、沖縄の物流拠点としての可能性を実感していただきました。

ツアー参加者からの声



武川内閣府審議官挨拶

ツアー参加者との活発な意見交換を行いました。

ツアー参加者からは、具体的な対象はリサーチ中であるものの、成長著しい沖縄の経済発展の流れを肌で実感いたしました。何とかビジネスチャンスを探して地域貢献したいと強く感じました。今後、沖縄での事業拡大に役立つ情報、大きな変化を感じました。沖縄地区のお取引の発展に協力・寄与出来るよう、会社をより成長させたいと思いました。

県外、海外への輸出という点で、沖縄の素材、原料を活かした健康、美容分野の商品開発に、大きな潜在力があると思います。

沖縄一本土間における物流コストが一番の課題であり、各分野が協力してコストを抑える施策を考えていただきたい。

といった意見がありました。

内閣府では、今回の沖縄力発見ツアーでいただいた様々な方々のアドバイス、御指摘を今後の取組に活かしていきたいと考えています。

総務部総務課

098-866-0044

泡盛ビジネスセミナー

～泡盛の輸出・インバウンドの促進に向けて～

3月4日、内閣府と沖縄県は、クールジャパン推進会議に併せ、クールジャパンの取組として泡盛製造者や流通業者などを対象とした「泡盛ビジネスセミナー」を開催しました。

同セミナーでは、200万人を超える来沖外国人観光客に対するPR方法など、泡盛の出荷拡大のための様々なアイデアが提言されました。



【総務部】

基調講演

セミナー冒頭、(株)はせがわ酒店の長谷川浩一代表取締役社長から基調講演がありました。講演では、泡盛は「瓶で熟成」し、年月を経るほどにすばらしい古酒になることをもってアピールするべきといったことや、世界に目を向ければ「市場は無限」にあり、世界に向かって行っていくかといった様々なアドバイスがありました。



長谷川浩一氏

パネルディスカッション

続くパネルディスカッションにおいては、泡盛を海外や外国人観光客などに対してアピールしていくポイントについて、外国人の視

点からの意見など、多くのアイデアが出され、議論が深まりました。（主な提言事項）

- ・スマートフォンなどに向けた情報発信の強化
- ・泡盛コンペティションの開催
- ・米国に設置予定のジャパン・ハウスの活用
- ・那覇空港における泡盛カウンターの開設
- ・香港や中国を意識した海外展開
- ・ハードリカーとしての販売推進

鶴保大臣による閉会挨拶

セミナーの閉会に当たり、鶴保クールジャパン戦略担当及び沖縄担当大臣から挨拶がありました。大臣は、沖縄の酒造業界が当面する厳しい経営環境を踏まえ、会場に集まった約120名の泡盛製造者などに向けて「皆さんで動いていただいて、経験値を高めていく



鶴保大臣の閉会挨拶

こと」の重要性を強く指摘し、「我々内閣府もその先頭に立つ」との決意を述べました。（注）

（注）内閣府は、泡盛の振興策などについての検討会を4月に立ち上げました。



泡盛製造者等約120名が参加

【基調講演】

長谷川 浩一 (株)はせがわ酒店代表取締役社長

【パネルディスカッション】

(モデレーター)

浜野 京 内閣府知的財産戦略推進事務局政策参与(パネリスト)

長谷川 浩一 (株)はせがわ酒店代表取締役社長

クリストファー・ペレグリーニ 俳優、焼酎調酒師

渡邊 賢一 元気ジャパン代表理事、ジャパン・ハウス・ロサンゼルス地方創生・官民連携戦略アドバイザー

玉那覇 美佐子 沖縄県酒造組合会長

大城 勤 沖縄県酒造協同組合理事長

私たちの暮らしと 独占禁止法の関わり

～消費者セミナー～

2月15日、糸満市役所において、「私たちの暮らしと独占禁止法の関わり」をテーマに、糸満市女性連合会を対象とした消費者セミナーを開催しました。



セミナーの様子

セミナーを開催するにあたり、糸満市女性連合会屋富祖民江会長から、「私たちが生活する経済社会の中で、何を見てどう判断して商品を購入するべきなのか、私たちの暮らしに独占禁止法がどう関わっているのか、一緒に勉強しましょう。」と、会員の皆さまにお声がけしていただきました。



糸満市女性連合会 屋富祖民江 会長

セミナー当日は、公正取引委員会の役割などを紹介するとともに、消費者に身近な独占禁止法違反事例（カルテルや再販売価格の拘束など）を説明し、セミナー参加者と質疑応答を行いました。

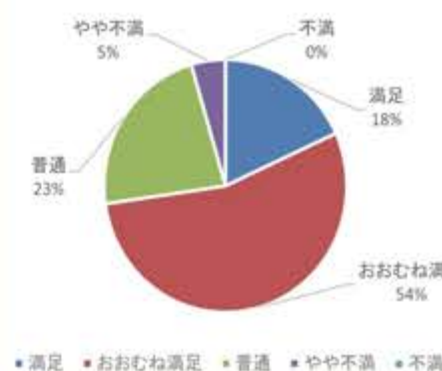
総務部公正取引室では、独占禁止法や公正取引委員会の仕事の説明、消費者からの質問にお答えする「消費者セミナー」を随時開催しています。

時期、所要時間などについて、調整・検討いたしますので、お気軽に御連絡ください。



公正取引室 多田修 室長

セミナー参加者のアンケート結果



ケース2
どこへ行っても
ぜんぜん安くないヨー！

メーカーがお店の販売価格を決めてしまうと、お店は価格の競争ができないため、私たちはどこのお店に行っても高い価格で買わなければなりません。

さいはんばい か かく こうそく
再販売価格の拘束

ケース1
どのお店も
同じ値段だなぁ

もし、お店同士が競争せずに話し合って商品の価格をつり上げたら、私たちはどこのお店へ行っても、同じ価格でしか商品を買うことができなくなってしまいます。

カルテル

消費者セミナー開催

お問い合わせ先

総務部公正取引室 総務係
☎098-866-0049

金融仲介の 質の向上に向けた 4 シンポジウム

3月13日、財務部金融監督課では、金融機関が顧客本位の良質なサービスを提供し、企業の生産性向上や国民の資産形成を助け、結果として、金融機関自身も安定した顧客基盤と収益を確保するという取組の啓発・普及を目的に、ザ・ナハテラスにおいて、「金融仲介の質



有識者によるパネルディスカッション

の向上に向けたシンポジウム」を開催し、当日は、企業経営者や金融機関関係者など約150名の方々が参加されました。

前半は、東京大学公共政策大学院の増田客員教授、金融庁総務企画局地域金融企画室の目下室長及び沖縄県よろず支援拠点の土地チーフコーディネーターによる基調講演が行われ、金融機関が果たすべき役割などについて提言が行われました。

後半は、沖縄県中小企業診断士協会の西里会長をコーディネーターとして、基調講演者3名のほか、沖縄県銀行協会の玉城会長と沖縄海邦銀行の比嘉社外取締役を加えた有識者をパネリストとしたディスカッションが行われ、「中小企業の生産性向上に向けた金融機関のあり方」などについて、活発な意見が交わされました。

財務部金融監督課

☎098-866-0095

高校生に対する 金融授業



寸劇の様子

財務部金融監督課は、3月、読谷高校からの要望を受け、「金融について考える」及び「トラブルにご注意！」の講座を4回行いました。

金融についての講座は、「お金は何故必要なのか」を高校生に考えてもらった後、「金融」の仕組みや目的などについて説明しました。また、金融トラブルの講座は、増加傾向にある特殊詐欺の被害状況を説明した後、高校生も交えて身近にあるトラブルの事例を再現し、

トラブル事例と対処法について説明しました。

高校生からは、「会社の資金調達の方法や特殊詐欺について理解することが出来た。」「身近なトラブル解決策や対処方法を知ることが出来たので、仮に困っている人がいれば、アドバイスしたい。」などの意見が寄せられました。



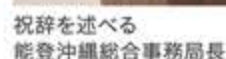
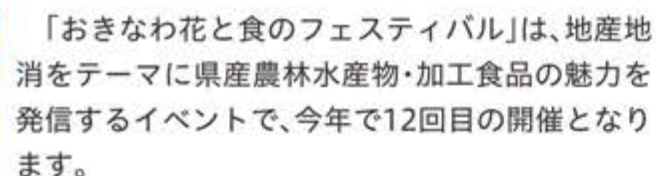
説明の様子

当課は、今後も、様々な職場・団体などからの要望に応じて、積極的に講師派遣に取り組み、金融広報と地域連携に努めてまいります。

財務部金融監督課

☎098-866-0095

～「沖縄県農林漁業賞」、「沖縄、ふるさと百選」、
「園芸フェア品評会・表彰」～



農林漁業の経営改善や技術の近代化などで功績があつた農林漁業者や団体を選ぶ「沖繩県農林漁業賞」の表彰式と、農林水産業と関わりをもち、地域が誇れる魅力あるふるさとづくりに取り組んでいる団体を認定する「沖繩、ふるさと百選」の認定式が行われ、当局からは能登局長が出席し、祝辞を述べました。

※「沖縄県農林漁業賞」
「沖縄、ふるさと百選」

花と食のフェスティバル

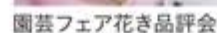
今年は2月4日、5日に奥武山総合運動公園で開催されました。農産物の特価販売や品評会、加工品の試食販売、各種体験教室など多くの催し物が行われ、両日で約13万人もの来場者で賑わいました。

花と食のフェスティバル

部門	受賞者名	市町村	主な品目
農産	大浜 博彦	石垣市	水稲
	うるま市い草生産組合	うるま市	い草
	野原 朝行	名護市	スプレーぎく
	玉城 政和	名護市	小ぎく、スプレーぎく
園芸	砂川 好徳	宮古島市	ゴーヤー
	赤嶺 智英	豊見城市	マンゴー
	森みやぎ農園	南城市	採卵鶏
畜産	大嶺 博正	糸満市	ソディカ旗流し、マグロー本釣り
漁業	野崎 達男、野崎 幸子	宮古島市	施設・露地野菜、さとうきび、畜産
農山漁村 地域活性化	曲の島々から山間の味つたえ隊	石垣市	戦時品目をベースとした商品開発

部門	市町村	団体名
集落	今帰仁村 うるま市	湧川区 勝連南風原区
生産	宮古島市	みやーくの味加工推進協議会
交流	南大東村	豊年祭実行委員会

部門	賞	受賞者名	品目名
花 き	農林水産大臣賞	神 谷 喬	小ざく
	沖縄総合事務局局長賞	喜 納 賢	小ざく
	農林水産大臣賞	玉代勢 兼 安	さやいんげん
野 菜	沖縄総合事務局局長賞	泉 川 寛 栄	トマト
	沖縄総合事務局農林水産部長賞	真栄田 武	にんじん
	沖縄総合事務局局長賞	比 嘉 栄 信	パッションフルーツ
果 樹	沖縄総合事務局農林水産部長賞	具志堅 興 元	タンカン
	沖縄総合事務局農林水産部長賞	赤 嶺 直 美	マンゴー
	沖縄総合事務局局長賞	平安山 保	アート部門
ブレイクデザイン	沖縄総合事務局局長賞	平安山 保	アート部門



＊園芸フェア品評会など

園芸フェアでは、高い栽培技術を持つ生産者に対して農林水産大臣賞が贈られるなど、花き品評会、フラワーデザインコンテスト、野菜品評会、果樹品評会、野菜・花き産地活動、沖縄県園芸拠点産地優良活動の6部門の表彰式が行われました。

当局からは、遠藤農林水産部長が出席し、祝辞を述べるとともに、表彰状を授与しました。

農林水産部生産振興課
☎098-866-1653

【農林水産部】

平成28年度農業農村整備
事業優良工事等における
局長表彰式



沖繩総合事務局が発注する農業農村整備事業の工事及び調査測量・設計業務のうち、その成果が優秀で他の模範となるものを実施した受注者、また、工事などを実施した事業地区の受益地域内で優れた地域貢献活動を展開した受注者の方々を表彰する「平成28年度農業農村整備事業優良工事等表彰」の受

賞者が決定し、3月1日に沖繩総合事務局において表彰式を行いました。

農林水産部農村振興課

098-866-1652

【優良工事】

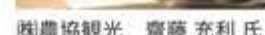
受注者	戸田建設九州支店
工事名	平成27年度宮古伊豆郡農業水利事業 伊豆郡導水路大橋工事（一般部伊豆郡側）工事 伊豆郡導水路（管水路工） 施工延長＝954.60m
工事概要	管種：鋼管 口径：800mm 橋梁との強度対策として、開口部からの鋼管 横式ガードレールを使用し、側面通行の一般車

【地域貢献活動】

安 置 者	旧古波岐組
工 事 名	平成26年度宮古伊勢郡農業水利事業 伊呂波導水路野原工区（宮古治水権取付部）工事
活動概要	宮古宮古土地改良事業において造成された施設（風力発電所・ブレイク・送電地等）の資産保全活動を平成23年度から継続して実施し、今活動に貢献している。 活動期間：平成23年度～現在まで 活動場所：北雄郡宮古市

受 賞 者 藤田泰持建コンサルタント

事業名	平成15年度沖縄本島南部農業水利事業 米田地下ダム山城江砂防施設建設事業（世
活動概要	国営沖縄本島南部土地改良事業において完成された山城江砂防の資源保全活動を平成23年度から継続して実施し、施設周辺の保全活動に貢献している。 活動期間：平成23年度～現在まで 活動場所：沖縄県糸満市



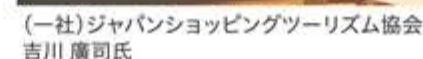
て、株式会社
百戦錬磨の
大野彰則氏
から「公認民
泊実現方法
とインバウ
ンドの動向」

滞在型農山漁村の確立・形成を図るため、沖繩ならではの伝統的な生活体験や農山漁村地域の人々との交流を楽しむ農山漁村滞在型旅行である「農泊」の推進とともに、沖繩県産の農林水産物などの輸出促進などを目的に、3月15日に沖繩県立博物館・美術館講堂において、農泊及び地域産品の輸出促進セミナーを開催しました。

セミナーでは、沖繩総合事務局の担当者から農泊の推進についての説明に加え、沖繩におけるインパウンドの農林水産物・食品の消費及び農泊の実態調査(平成28年度沖繩振興推進調査)の調査結果報告がありました。

として、民泊による空き家活用・地域活性化などの状況について、一般社団法人ジャパンシヨッピングツーリズム協会の吉川廣司氏から「インバウンドシヨッピングから始める地域産品の輸出」として、インバウンドに対して農・畜・水産物をどのように販売するのかなどについて説明とともに各種先進事例の紹介をしていただきました。

当日は約80名の参加があり、参加者からは、「農泊や民泊の現状ななどを理解できた。」「インバウンドを対象にどのようにお土産を販売すれば良いのか参考になった。」などの声が寄せられました。



【農林水産部】

農泊及び地域産品の
輸出促進セミナー

【経済産業部】

都市ガスの小売全面自由化

～今年4月1日から小売全面自由化がスタートしました～

都市ガスの供給については、平成7年から大口を対象に段階的に自由化が開始されましたが、家庭などの小口については、これまで都市ガス事業者による供給独占となっておりました。今年4月1日からはガスシステム改革による小売全面自由化により、都市ガス事業者以外の者も全ての需要に対して供給することが可能となり、需要家も供給する事業者を自由に選べるようになりました。また、この制度改革により、小口・大口事業という区別もなくなり「ガス小売事業」と類型化され、料金規制も一部を除き、原則撤廃されました。

安全・安心はそのままに 都市ガスも選べる時代へ

都市ガスを供給する会社を選べることができます。	新しい料金やサービスを利用することができます。
保安点検の実施や緊急時の対応は変わりません。	新しい会社でも、ガスの品質に影響はありません。

小売全面自由化によって 開放される市場

今回の小売全面自由化により、これまでの類型が見直され、ガス製造事業（LNG基地事業）、一般ガス導管事業、特定ガス導管事業、ガス小売事業という新たな事業類型ごとにそれぞれ必要な規制が課されます。ガス製造事業（LNG基地事業）は届出制、一般ガス導管事業は許可制、特定ガス導管事業は届出制、ガス小売事業は登録制となります。

ガスシステム改革の目的

- ① 需要家の選択肢や事業者の事業機会を拡大します。
 - ② 料金を最大限抑制します。
 - ③ 安定供給を確保します。
- 需要家のニーズに多様な選択肢で応えます。また、他業種・他地域からの参入、新技術などの活用を通じてイノベーションを誘発します。
- ② 料金を最大限抑制します。
エネルギー事業者間の競争や、他業種・他地域からの参入を促し、料金を最大限抑制します。
- ③ 安定供給を確保します。
震災時の経験を踏まえ、都市ガス導管網の整備・相互接続を促進します。

小売料金の経過措置について

小売全面自由化後にガス小売事業者が設定する料金は自由であることが原則であるが、従来の一般ガス事業者や簡易ガス事業者と、他のガス小売事業者との間に適正

【経済産業部】

ヘルスケア産業創出 セミナーの開催

～沖縄におけるヘルスケア
ビジネスの拡大に向けて～

経済産業部企画振興課では、人口減少と超高齢化社会が進展する中、健康増進や医療費の適正化に加え、地域経済の活性化が求められていることから、生活習慣病を改善するきっかけ作りや、生活の質を高めるための癒しの提供などを可能とするこ

当課ではその具体的な取組として、ヘルスケア産業振興などの任意団体である万国医療津梁協議会の産学官ネットワークを活用した各種ビジネスマッチングによる新たなビジネスモデルの創出により、重層的なヘルスケアサービスの拡大を目指しています。

当事業の一環として、多様なヘルスケアビジネスの取組創出、ヘルスケア関連産業の活性化を目的



沖縄でのヘルスケアビジネスの創出について講演する志水氏



セミナーでの参加者による意見交換の様子

として、2月28日に「ヘルスケア産業創出セミナー」を開催しました。講師として株式会社日本総合研究所リサーチ・コンサルティング部門マネージャーの志水氏をお迎えし、ヘルスケアビジネスの課題や可能性、今後の展開方法についてご講演いただきました。また、後半では、セミナー参加者からもそれぞれの事業内容について簡単にご紹介いただきました。沖縄において既にヘルスケアビジネスに取り組んでいる事業者同士の意見交換を通して、今後の連携可能性が期待できる会となりました。

【開発建設部】

国道331号 糸満道路完成開通

～南部地域へのアクセス向上～

1. 国道331号糸満道路
国道331号糸満道路（糸満市西崎～真栄里 延長3.4km）は地域高規格道路である沖縄西海岸道路の一部を構成する幹線道路です。糸満道路は、平成23年度までに糸満市糸満～真栄里（延長1.8km）が4車線で、糸満市西崎～糸満市糸満（延長1.6km）が暫定2車線で開通しておりましたが、今般、全区間において4車線化の工事が完了し、平成29年3月4日16時30分に全線完成開通しました。

2. 開通により期待される効果
糸満道路の走行性向上及び並行する現道の国道331号の交通量減少により、渋滞緩和や沿道環境の改善が期待されます。

- 那覇空港からひめゆりの塔までの所要時間が約3割（約10分）短縮するなど南部地域の観光周遊の利便性向上により地域経済の好循環への貢献が期待されます。
- 南部地域から那覇空港や那覇港までのアクセス性が向上し、物流



全線完成開通した糸満道路



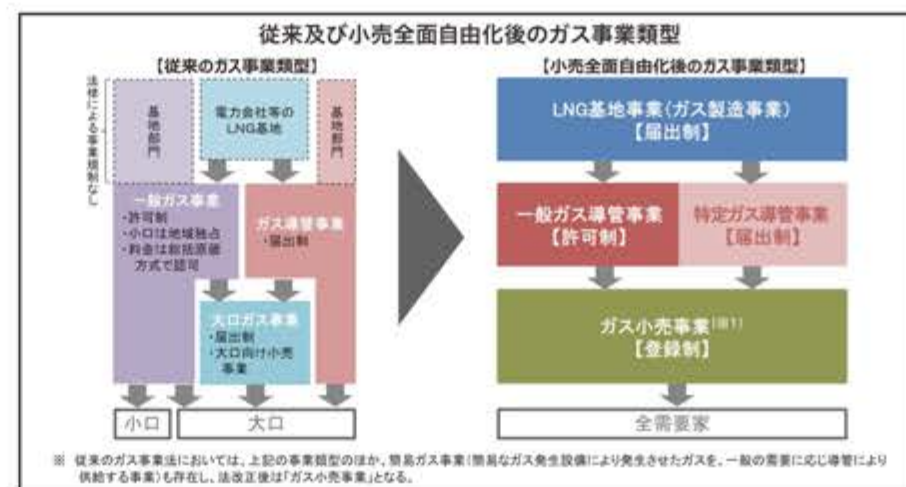
避難訓練の様子

3. 糸満高架橋を津波災害時の一時避難場所として活用
3月4日の糸満道路開通に先立ち、糸満道路の高架橋を津波災害時の一時避難場所として使用できるよう糸満市と南部国道事務所に於いて「津波時における緊急避難場所の使用に関する協定書」が締結され、その後、地元の小中学生や地域住民を対象に避難訓練を行いました。糸満高架橋が一時緊急避難場所として地域の方々にも認識され、役立つことが期待されます。

企業の進出が進み地域経済の好循環に大きく貢献しています。

な競争関係が認められない場合には、消費者の利益が阻害されることのないよう、当該事業者に対しては小売料金規制を課すこととしています。

なお、県内の簡易ガス事業者については、平成28年10月28日にパブリックコメントを実施し、指定（二地点群）を行い、料金規制を残しています。



要配慮者利用施設の管理者向け説明会

～水害・土砂災害への備えについて～

平成28年8月の台風10号により、岩手県の小本川が氾濫し、岩泉町の高齢者福祉施設で9名の方が亡くなるという甚大な浸水被害が発生したことを受け、国土交通省、厚生労働省、気象庁及び地方自治体と連携し、水害・土砂災害の危険性及び適切な避難行動についての理解を深めていただくことを目的として、高齢者福祉施設などの要配慮者利用施設の管理者を対象とした説明会を開催することとなり、沖縄県でも5地区で開催しました。



H28台風10号で被災した高齢者福祉施設
(国土地理院撮影)



岩男技術管理官による主催者挨拶(南部地区)



説明会状況(南部地区)



沖縄県「沖縄防災情報ポータル」



国土交通省「川の防災情報」

国土交通省「川の防災情報」：<http://www.river.go.jp/kawabou/ipTopGaikyo.do>
 沖縄県「沖縄防災情報ポータル」：<http://www.bousai.okinawa.jp/>

【開発建設部】



説明会

沖縄総合事務局では、沖縄気象台及び沖縄県と連携し、沖縄県内の北部地区、中部地区、南部地区、八重山地区、宮古地区の5地区で2月15日から3月24日の間に順次説明会を開催し、全体で約680名の管理者などに参加いただきました。

沖縄総合事務局からは、国土交通省雨量計データ、河川水位データなどが入手できる「川の防災情報」や水害・土砂災害に対する対応などを紹介しました。

また、「水防法等の一部を改正する法律案」が閣議決定され、浸水想定区域内や土砂災害警戒区域内に所在する要配慮者利用施設については、避難確保計画を作成し、当該

市町村へ報告する義務が盛り込まれていることも紹介しました。

この他、沖縄県土木建築部からは、主要河川監視カメラのライブ画像などが入手できる「沖縄防災情報ポータル」や沖縄県内における水害・土砂災害の事例、沖縄気象台から、気象台の発表する気象情報や台風情報の見方などが紹介されました。

また、沖縄県子ども生活福祉部から、災害時の避難計画を充実させることの必要性などが紹介されました。

参加者からは、「常に気象情報に配慮し、自宅待機や早めの退所を促す」、「避難確保計画など参考になった」、「今後再点検をして訓練に生かしていきたい。」などの意見がありました。

最後に

要配慮者利用施設においては、台風などの荒天時には、市町村が発令する避難に関する情報を待つだけでなく、管理者や職員自ら雨量や河川水位などの情報を入手して、早めの避難行動につなげていただきたいと思います。



受賞式の状況(仲井真自治会館)

「国場川こいのぼりまつり」が 手づくり郷土賞(一般部門)を受賞

～『手づくり郷土賞(ふるさとしょう)』【国土交通大臣表彰】～

国場川に清流を取り戻す会(那覇市)の「国場川こいのぼりまつり」が県内から3年ぶりに「手づくり郷土賞」を受賞しましたので活動概要などを紹介します。

【開発建設部】



「国場川こいのぼりまつり」の状況

1.「国場川こいのぼりまつり」
 少年に夢を、青年に希望を、お年寄りに誇りを...そんな街に住みたい！

「国場川に清流を取り戻す会」は那覇市仲井真の国場川をフィールドとして清掃・イベントなどを開催している団体です。本地域は本土復帰(昭和47年)以降の急激な都市化に伴い地域のコミュニティ機能が低下し、地域の中央を流れる国場川も流域の急激な開発とともに河川環境の悪化などの問題も発生していました。そのため、地域環境の改善を目的として地元有志が

平成9年に「国場川に清流を取り戻す会」を誕生させ「子どもたちのふるさとづくり」の一環として、手づくりこいのぼりによる「国場川こいのぼりまつり」を行うとともに川沿いの清掃や植栽を行うなど河川環境の改善に取り組んでいます。活動には近隣住民の枠を超えて、高校生、大学生もボランティアとして参加するなど、幅広い参加者が見られます。

選定委員会では、「20年にわたり継続した活動を行っていることや、子どもからお年寄りまで幅広い世代の参加者に活動が支えられていることなどが評価されました。」

2.「手づくり郷土賞」とは

「手づくり郷土賞」は昭和61年度に創設され平成28年度で31回目となる国土交通大臣表彰です。社会資本と関わりをもつ地域づくりの優れた取組を表彰し、好事例として広く全国に紹介すること、個性的で魅力ある地域づくりに向けた取組が進むことを目的としています。

詳しくは左記のURLを御覧ください。

http://www.dco.go.jp/kaiken/3434/kaiken_chiiki_kyodoshou.html (715)



雨にも負けず河川沿いに桜の苗木を植栽(右上 植栽から5年、今年も満開の桜)



清掃前の集合状況

内閣府だより

沖縄でのバス自動運転実証実験について

地域のコミュニティバスなどでの自動運転技術の活用を想定して、平成29年3月20日(月)から南城市の公道での実証実験を実施しました。本格的な公共バスへの導入に向けた実証実験は全国初の取組です。

今回の実験では、高齢者の方々も乗り降りしやすいようにバス停に正確に横付けする正着制御時術や、道路に沿って自動操舵する車線維持制御技術などについて検証を行いました。

また、第2弾として、平成29年6月を目途に、離島においてもバスの自動運転実証実験を予定しています。

自動運転技術の実用化に向けた取組を積極的に進めることで、バス事業の利便性、安全性、採算性などの向上を図り、公共交通の活性化や沖縄の渋滞問題の解決に役立つよう今後も取り組んでいきます。



3月20日(月)の実証実験出発式には、島尻大臣補佐官や古謝南城市長などが出席しテープカットを行いました。



3月30日(木)には、鶴保沖縄担当大臣も南城市を訪問し、実証実験の様子を実際に視察しました。視察の中では、自動走行するバスに試乗し、その技術を自ら体験しました。

沖縄空手のホームページ開設について

空手は、今や世界の多くの国や地域に広まり、2020年東京オリンピックの正式種目にも選ばれるなど、大変ポピュラーな武道となっています。

沖縄がその空手の発祥の地であることや、沖縄空手の魅力などを国内外に発信するためのホームページを開設しました。

沖縄空手の紹介や、沖縄空手の偉人のエピソードなどを掲載しておりますので、是非御覧ください。

URL: <http://www.okinawakarate.go.jp/>



バス停のリニューアル



リムジンバス乗り場の案内を掲示

バスの利用・活性化の取組

バスの利用・活性化の取組として、関係者の意見を取り入れたバスマップの作成と那覇空港のバス停リニューアルを行いました。バスマップは、多言語表記で方

那覇空港は、沖縄の重要な交通結節点として機能しており、空港を起点とする路線バスは、10系統(平成29年3月末時点)が運行しています。そのほかにも様々な交通手段が集中していることで、近隣都市部で発生する交通渋滞の一因となっています。

向別のバス案内や観光地までの所要時間・運賃、経路図などを記載して、空港内の観光案内所やバス会社のブースなどに設置させて頂きました。

バス停には、観光客でも県内の位置関係が把握できるように、方向別に色分けした経路図を貼付してバスの利用を図りました。

当局では、今後も公共交通の利用・活性化に向けた様々な取組を実施していきます。

今年4月から、我が国初の図柄入りナンバープレートは、ラグビーワールドカップ2019が国内で開催されることを記念して交付されますが、図柄入りナンバープレートへの変更は車両購入時だけではなく、現在、お乗りの自動車についても、番号を変更することが可能です。

この機会にお使いの自動車のナンバープレートの図柄入りを検討してはどうでしょうか。

通常ナンバープレートと図柄入りナンバープレート

対象車種	登録自動車(自家用)	登録自動車(事業用)	軽自動車(自家用)
通常のナンバープレート	品川599 ら20-19	品川599 あ20-19	品川589 ろ20-19
ラグビーワールドカップ特別仕様	品川599 ろ20-19	品川599 あ20-19	品川589 ろ20-19
	品川599 ら20-19	品川599 あ20-19	品川589 ろ20-19

※お申し込みは、ウェブサイト(<http://www.graphic-number.jp/>)でも行えます。

詳細は「沖縄県自動車標板協会(tel:098-877-5142)」にて、ご確認ください。



「プレミアムフライデー」を満喫大!!

運輸部監査指導課 富真嗣章

プレミアムフライデーについて

- 価値ある商品・サービスに対し適正な対価が支払われることで、デフレ的な傾向を変えとともに、個人が「生活の豊かさ」や「幸せ」につながる、充実感や満足感を実感できる生活スタイルへと変革。
- 「働き方改革」とも連動し、有給取得やフレックス制度の活用などにより、環境作りを後押し。

「プレミアムフライデー」は、国民一人一人が、「特別な人(家族、友人など)」と、「特別な時間」を過ごすことで、生活における「豊かさ」「幸せ」につながる、充実感や満足感を感じることが出来る体験や時間を創出する取組

実施方針

- (1) 初回実施：平成29年2月24日(金) ※今後も「月末」の「金曜日」に実施
- (2) 実施主体：買物・観光・ボランティア・家族との時間など、「生活の豊かさ」や「幸せ」を感じられるような、付随する商品・サービス、イベントなどを地域・コミュニティ・企業等で検討
※「日本再興戦略2016」に基づく「官民連携プロジェクト10」の1つとして実施
(プレミアムフライデー推進協議会を昨年末に発足)
- (3) 対象地域・業種：全国各地で実施
企業等の具体的な取組は
プレミアムフライデー推進事務局
ホームページ上で随時掲載
URL : <http://premium-friday.go.jp/>
- (4) 統一ロゴマーク 【使用イメージ】



ミックスフルーツと
チョコレートのパンケーキ

フルーツがたっぷりのって、味もさることながら、見た目も美しく、食欲をそそります。



プレミアムパンケーキ

ふわふわ食感とホイップバターと生クリーム、シロップの組み合わせにより、絶妙なおいしさです。

おいしく
いただきました。
幸せ〜!!



「満喫しました」

最初の「プレミアムフライデー」の実施日である2月24日、私も上司の了解を得て、年次休暇を取得し、3時過ぎに退庁しました。当日はたまたま私の妻も仕事で休日であったこともあり、二人で、おもしろまちにあるパンケーキのお店に行きました。お店の中は若い女性客で賑わっており、男性客は数名ほどしかおらず、少し気後れしましたが、人気商品である「プレミアムパンケーキ」と「ミックスフルーツとチョコレート」のパンケーキをいただき、独特の食感と絶妙な味に舌鼓を打ち、妻との会話も弾んで、至福の時間を過ごしました。

その日の夜は、一時帰郷していた県外の学校に通っている息子が、週明けに県外へ戻ることもあり、家族でとある焼肉屋に行き、食事会を行い、就職活動中の息子を家族みんなで激励しました。

食べてばかりの「プレミアムフライデー」で、おなかまわりが心配になりましたが、今度はボウリングなど、楽しみながら体を動かしておなかまわりを引き締めたいと思っています。

皆さんも「プレミアムフライデー」を満喫してみたいかがでしょうか？

「プレミアムフライデー」皆さんもテレビなどで放送され、ご存じの方も多いと思いますが、「プレミアムフライデー」の取り組みがスタートしました。

「プレミアムフライデー」は、毎月の月末金曜日に午後3時までには仕事を終え、家族や友人と特別な時間を過ごし、生活における「豊かさ」や「幸せ」につながる、充実感や満足感を感じることが出来る体験や時間を創出するための官民挙げての取り組みとなっています。また、「プレミアムフライデー」当日には、流通業界や旅行業界を中心に、関連イベントの開催や期間限定商品の販売など、個人消費の底上げによる経済の活性化のための様々な取り組みも行われています。沖縄総合事務局におきましても、本取組の趣旨に沿って、職員に対して、年次休暇の活用などにより早期の退庁が奨励されております。